
年の瀬に思うこと。

augusu

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

年の瀬に思うこと。

【著者名】

IZUMI

【作者名】

augusu

【あらすじ】

年の瀬。思ひことはありませんか？

(前書き)

この一年、たくさんの事がありました。
そして思いのです。その思いを小説にしてみました。

「なあ……俺達の今年って」
男は唐突にそう切り出した。

忘年会の二次会。というには少し洒落たバーに入つて、同僚で親友との二人だけの酒の席だった。

「俺達がやつた、終えたこの一年つて、何か意味があつたのかな?」
酒が入っているせいなのだろう。男はらしくない事を友人に聞いた。

「そうだな……。俺達がやつてる仕事なんて、きっと誰でもやろうとすれば出来る事だものな」

「でも、俺達はそれにすがつてる。なのに迷つてる。こんな生き方で良いのかなつて……。迷つてるのは俺だけは?」

友人はそつと首を横に振つた。けれどもすぐには答えを返さない。ジャック・ダニエルを、一口。安易に出てこようとする言葉達を友人はそれで飲み干した。

少し、間を空けて。

「そう思えるなら、来年を変える権利が、お前にはあるんじゃないかな?」

そう切り出した。

「お前は、その権利がないのか?」

「残念ながら、今まま来年を迎える」

年の瀬。来年の話は鬼も笑う。友人も笑つて表情を碎く。
けれど真剣に男の思いに答えを与える。

「そう思うのなら、お前は来年を信じる義務がある。変えてみせるつて信じる。未来を信じる勇気がいる。お前にはそれがあるのか?」

「…………分からぬ」

男は同じくジャック・ダニエルをあおつて顔を伏せた。

友人はそれに合わせて同じく飲み干し、おかわりを一杯頼んだ。

またしばしの静寂。

そして友人は自分の思いを口にする。

「確かに思いたくなる酷い年だったよ。けれど、そんな世の中でも俺達は間違えず犯さずやつてきたじゃないか」

「迷いを抱く権利は、正しい者にだけあるものだ」

「俺達は正しくやつてきた。だから迷つても良いんだ。間違えたつて良いんだ。間違えてないんだからさ」

「……そう、なのかな」

「きっと、そうさ」

友人は注がれたジャック・ダニエルを掲げた。
男はその言葉を胸に刻むように……。

キンッ

小さなガラスのぶつかる音が、レイ・チャールズの音楽にこだました。

(後書き)

あなたの一年が、せめて良き田で終わりますように……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8816z/>

年の瀬に思うこと。

2011年12月27日19時50分発行